

YAMAHA

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

AX-570

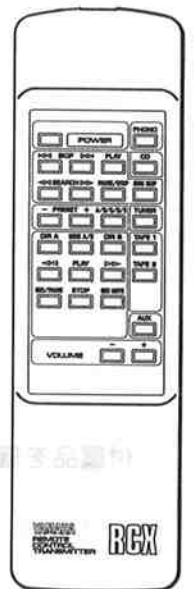
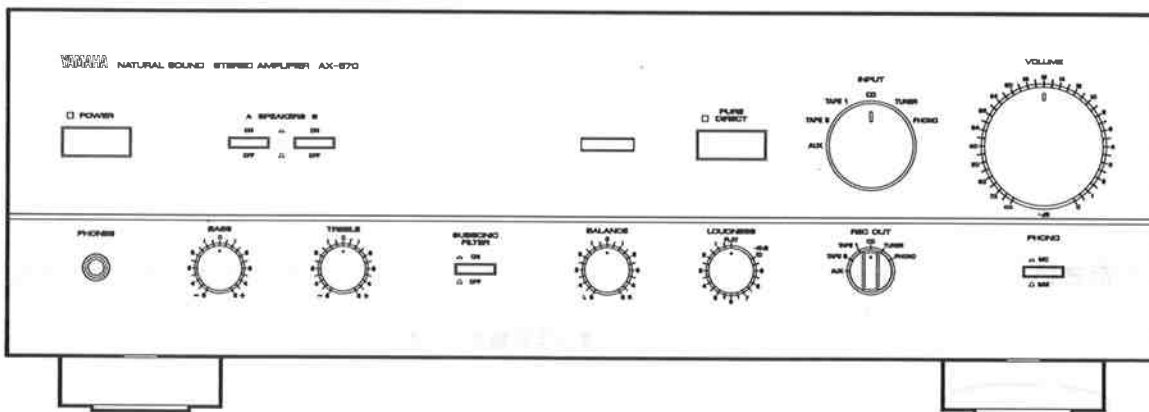
取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください

このたびはヤマハ・プリメインアンプAX-570をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AX-570の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

なお、お読みになったあとは、保証書とともに必ず保存してください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。

保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分にご注意ください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

特長	2
ご使用のまえに	3
接続のしかた	4
各部の名称とはたらき	6
操作のしかた/再生	8
操作のしかた/録音	9
故障かなと思ったら	10
参考仕様	11
ブロックダイアグラム	11
ヤマハホットラインサービスネットワーク	12

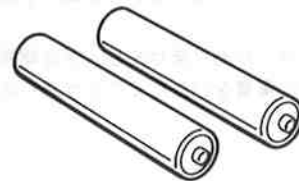
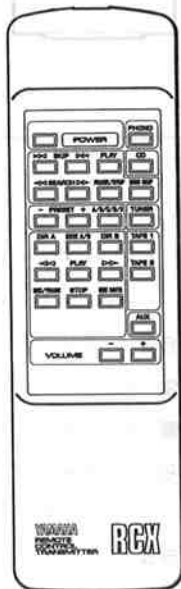
特 長

- システムを余裕のパワーでドライブする100W+100W（8Ω）の定格出力。
- 管を汚す振動を徹底して排除する高出力素材による新開発防振ベースを採用。
- システムの拡張に便利なカプラー端子の装備。
- MCヘッドアンプ内蔵のフォノセクター装備。
- すべてのソースで低歪な再生を実現するピュアダイレクトスイッチを装備。
- リモコンの標準装備。
- 周波数変化に関係なく常に安定なドライブを約束するリニアダンピングサーキット。

付属品を確認してください。

リモコン

単3型乾電池：2本



ご使用のまえに

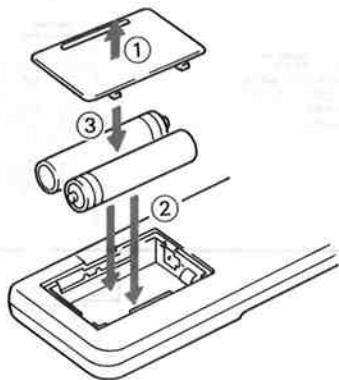
- 次のような場所には設置しないでください。
 - ・ ぐらついた台の上や、傾いた所には置かないでください。落ちたり倒れたりすると危険です。
 - ・ 窓際や暖房器具の近くなど極端に温度の高い場所(周囲温度 40°C 以上)、または温度の極端に低い場所(周囲温度 -5°C 以下)では、本機の正常な機能を維持できない場合があります。
 - ・ 本機の使用中は温度が上昇しますので、放熱しやすい所に置いてください。特にラック内などに設置する場合はご注意ください。
 - ・ 湿度の高い場所(湿度 90% 以上)は、金属部分にサビを生じたり故障の原因となることがあります。
 - ・ ほこりの多い場所は、スイッチなどの接触不良や雑音などの発生原因となり、性能を損なうことがあります。
 - ・ トランスやモーターの近く、または振動の多い場所には設置しないでください。誘導ハムをひろう原因となります。
- 放熱を妨げないために、本機上面の通風孔の上に敷物やレコードなどを絶対に置かないでください。
- 定格電圧 100V でご使用ください。また電源コードは大切に取り扱いください。特にコンセントから外すときは必ずプラグを持って抜いてください。
 - * 本機は、日本国内電源 $\text{AC}100\text{V} 50/60\text{Hz}$ の範囲でご使用ください。この電圧以外でのご使用は故障などの原因となりますので、絶対に避けてください。

- 旅行や外出などで本機を長期間使用しないときは、安全のため電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 落雷の恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。
- 本機の底板などは開けないでください。内部に手などを入れずと感電事故や故障を起こすことがあります。本体内部に異物が入ったときは、ただちに電源プラグを抜いてお近くのヤマハ電気音響サービス拠点またはお買い上げの販売店にご連絡の上、点検を受けてください。
- 本機の内部に異物(ピンやコインなどの金属片や、紙などの燃えやすいもの)が入ったり、雨や花瓶などの水がかかった場合、そのままの状態でも電源を入れますと、感電事故や故障を起こすことがあります。そのようなときは、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くのヤマハ電気音響サービス拠点またはお買い上げの販売店にご連絡の上、点検を受けてください。
- 故障と思われるときは、まず10ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

リモコンについて

● 電池の入れかた

- ① リモコンの裏の蓋を開けます。
- ② 単3乾電池(SUM-3)2本をプラス(+)、マイナス(-)を正しく入れます。
- ③ 蓋をカチッと音がするまで閉めます。



● 電池の交換時期は

リモコンで操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。早めに2本とも新しい電池に交換してください。

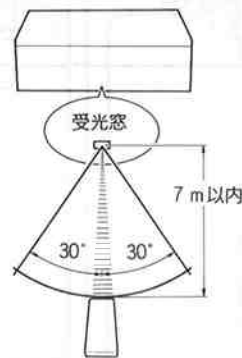
■ 乾電池に関するご注意

- ・ 単3型電池をご使用ください。
- ・ プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンのケース内の表示通りに正しく入れてください。
- ・ 種類の異なった電池を混ぜて使わないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- ・ プラス(+)とマイナス(-)を金属片で直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- ・ 万一液漏れが起こった場合は、ケースについた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。
- ・ 新しい乾電池と、一度使用した乾電池を混ぜて使わないでください。

■ リモコン操作について

リモコンの信号は直進性の高い赤外線を使っています。操作をするときはリモコンと本体の受光窓の間をさえぎらないようご注意ください。

● リモコンの操作範囲



■ 付属のリモコンは

本機およびヤマハの機器専用です。本機のリモコン操作によって誤動作する機器があるときは、その機器の受光窓を紙などでふさが、設置場所を変えてください。

■ リモコンはていねいに扱ってください

お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや浴室など温度・湿度の高いところには置かないようご注意ください。

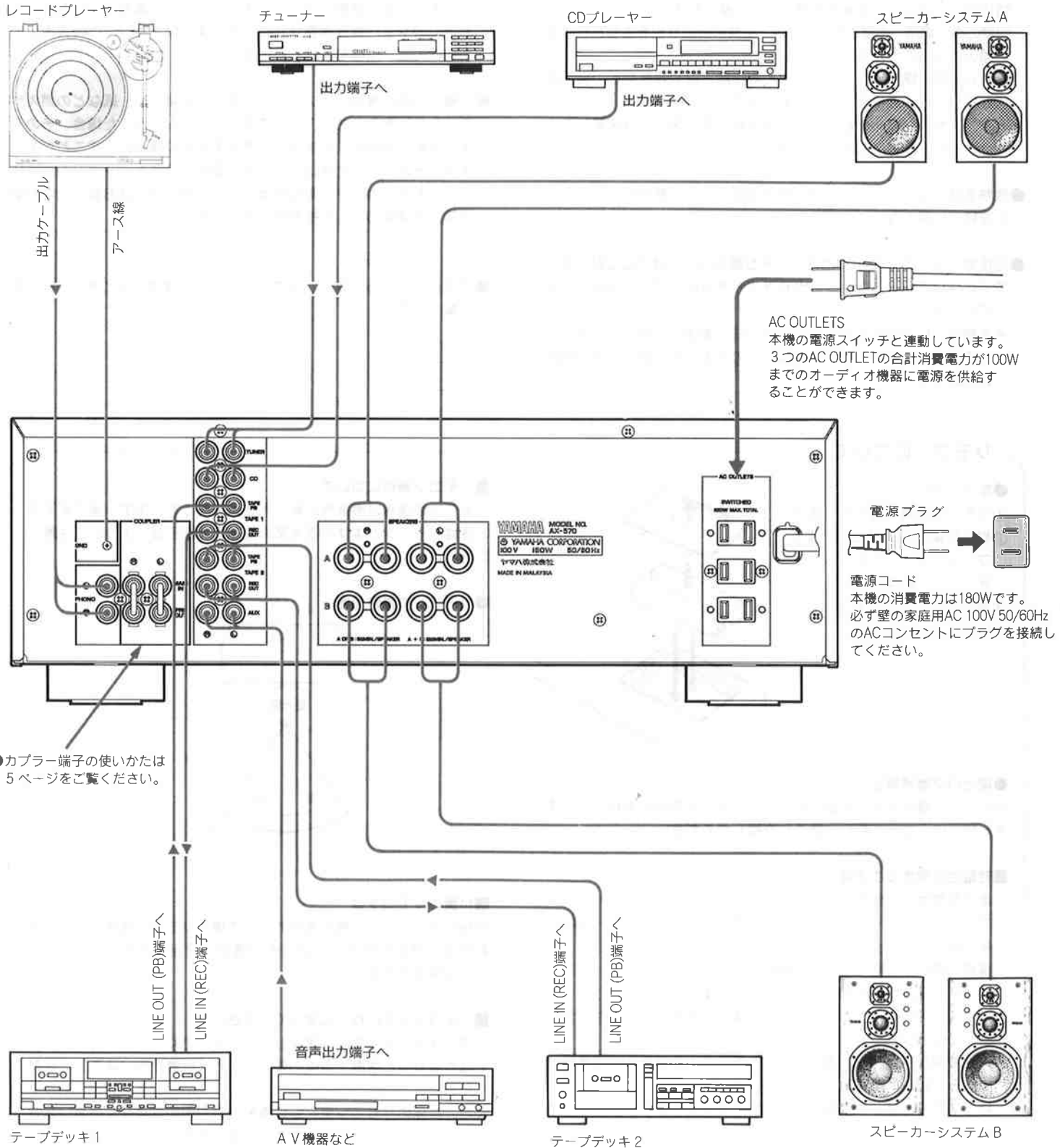
また、本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。強い光が当たっていると、リモコンの操作ができなかったり誤動作することがあります。

接続のしかた

接続上のご注意

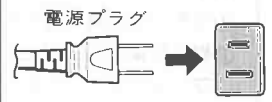
- 本機および各機器の電源を切ってから接続してください。
- 各機器の L (左チャンネル), R (右チャンネル), IN (入力), OUT (出力) を確認して、正しく接続してください。
* 間違いを防ぐため接続する各機器とも、あらかじめピンコード (市販品) のプラグの色を L・R 決めて、使用されることをおすすめします。

- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。
- 接続に誤りがないことを確認してから、電源プラグを AC コンセントに差し込んでください。
- 本機はアナログ接続専用です。接続する機器にアナログ、デジタルの両方の端子がある場合は、アナログ端子を使って接続してください。



● カプラー端子の使いかたは 5 ページをご覧ください。

AC OUTLETS
本機の電源スイッチと連動しています。
3つのAC OUTLETの合計消費電力が100W
までのオーディオ機器に電源を供給
することができます。

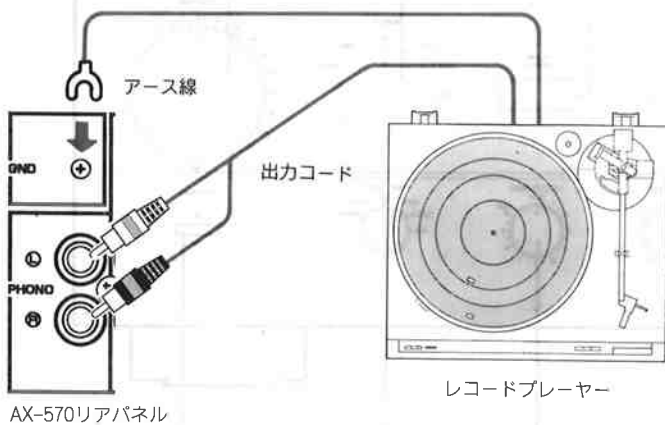


電源プラグ
電源コード
本機の消費電力は180Wです。
必ず壁の家庭用AC 100V 50/60Hz
のACコンセントにプラグを接続し
てください。

▶ : 信号の流れ

■レコードプレーヤーの接続

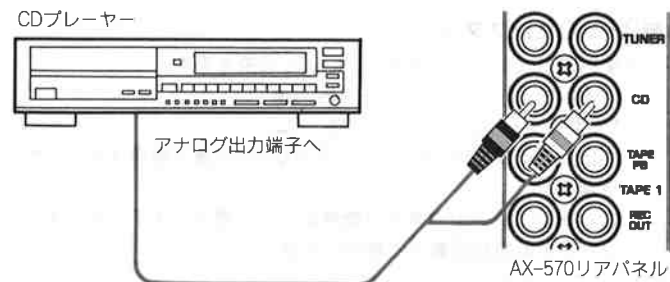
レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子にL, R正しく確実に差し込んでください。アース線はGND端子に接続します。



■CDプレーヤー、チューナー、その他の機器の接続

CDプレーヤーはCD端子に、チューナーはTUNER端子に、その他の機器を接続するときはAUX端子に、それぞれL, Rを正しく確実に接続します。

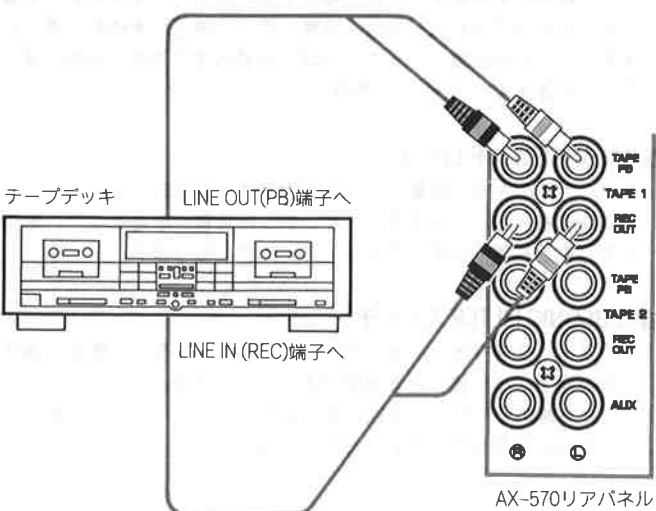
* AV機器を接続するときは、AV機器の音声出力端子とAUX端子を接続します。



■テープデッキの接続

TAPE 1, TAPE 2端子に2台までのテープデッキを接続することができます。

テープデッキのLINE OUT (PB) 端子と本機のTAPE PB端子を、テープデッキのLINE IN (REC) 端子と本機のREC OUT端子を、それぞれL, R正しく接続します。

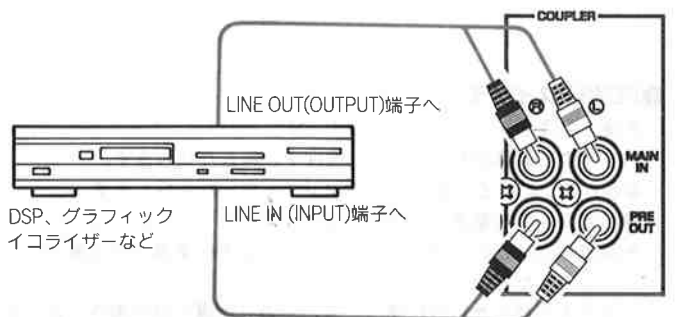
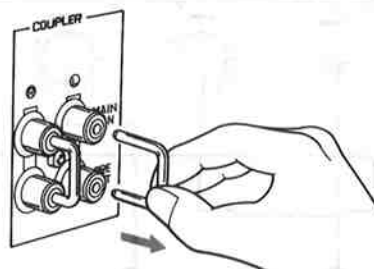


■カプラー端子の使いかた

DSP機器やグラフィックイコライザーなどを接続するときはCOUPLER (カプラー) 端子のジャンパーピンを抜き取り、下図のように接続します。

* カプラー端子を使用しないときは必ずジャンパーピンを差し込んだままご使用ください。ジャンパーピンが抜けていますと音は出ません。

* ビューダイレクトスイッチがオンのときは、ソース信号はカプラー端子をパスしますので、カプラー端子に接続した機器は動きません。



■スピーカーの接続

SPEAKERS A, SPEAKERS B端子に2組のスピーカーシステムを接続することができます。

右側に設置したスピーカーをSPEAKERSのR端子に、左側に設置したスピーカーをL端子に、極性(+)、(-)を間違えないように確認して確実に接続してください。

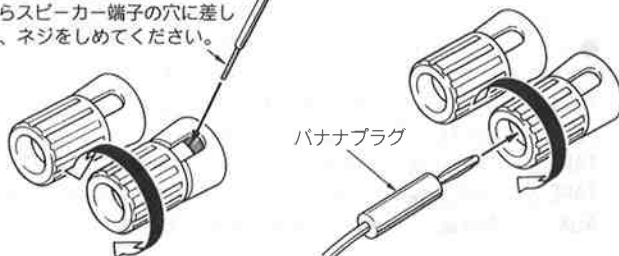
* 極性を間違えますと音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音になることがあります。

* バナナプラグを使って接続する場合は、端子ネジを強くしめてから接続してください。

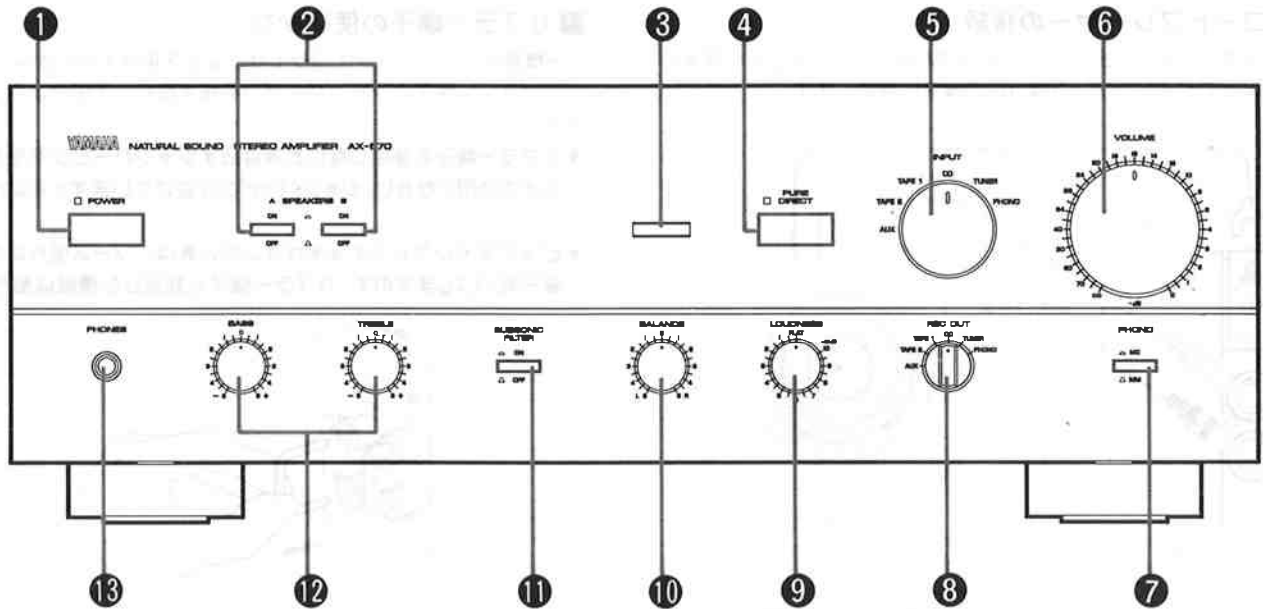
ご注意

スピーカーシステムのA, Bを各々単独で使用する場合は、インピーダンスが6Ω以上のスピーカーを、A, B同時使用をするときは各インピーダンスが12Ω以上のスピーカーをお使いください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用しますと、本機が故障するおそれがあります。

スピーカーコードの先端の被膜を10mm位はがし、芯線にヨリをかけてからスピーカー端子の穴に差し込み、ネジをしめてください。



各部の名称とはたらき



パワー

① POWERスイッチ

本機の電源を入/切するスイッチです。一度押しと電源が入り、もう一度押しと電源が切れます。電源が入っているときは上のインジケータが点灯します。

- リモコンでも電源の入/切ができます。
- * 電源を入れるときは、ボリュームつまみを必ず最小の位置 "∞" にしてください。
- * 電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働き、音は出ません。

スピーカー

② SPEAKERSスイッチ

本機に接続したスピーカーシステム A、B を選択するスイッチです。A のスイッチを押すと A 端子に接続したスピーカーから、B スwitchを押すと B 端子に接続したスピーカーから音が出ます。A・B 両方のスイッチを押すと両方のスピーカーシステムから音が出ます。

③ リモコン受光窓

リモコンの信号を受光するところです。

ピュア ダイレクト

④ PURE DIRECTスイッチ

このスイッチを押すと、ソースの信号はトーン、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターなどの各回路をパスして、ダイレクトに出力されますので、よりハイクオリティな再生がお楽しみいただけます。スイッチがオンのときは上のインジケータが点灯します。

- * ピュアダイレクトスイッチがオンのときはカブラー端子に接続した機器は働きません。

インプット

⑤ INPUTセレクトター

再生したいソースを選択するつまみです。つまみのインジケータを再生したいソースに合わせます。

- リモコンでも操作することができます。
- PHONO レコードプレーヤーを再生するとき
- TUNER チューナー (FM, AM放送) を再生するとき
- CD CDプレーヤーを再生するとき
- TAPE 1 TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき
- TAPE 2 TAPE 2 端子に接続したテープデッキを再生するとき
- AUX AUX端子に接続した機器を再生するとき

ボリューム

⑥ VOLUMEコントロール

音量を調節するつまみです。右に回すほど音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

- リモコンでも操作することができます。

フォノ

⑦ PHONOセレクトター

ご使用のカートリッジのタイプにより切換えます。

- MM型カートリッジ・・・MM (■)
- MC型カートリッジ・・・MC (■)
- * 高出力タイプのMCカートリッジはMMの位置で使用することができます。
- * カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますので、カートリッジの取扱説明書をご参照ください。

レックアウト

⑧ REC OUTセレクトター

テープデッキで録音するときに、録音するソースを選択するつまみです。インプットセレクトターで選んでいるソースに関係なく録音ソースを選択することができます。(9ページ参照)

ラウドネス

⑨ LOUDNESSコントロール

人間の聴感音量が小さくなるほど低音と高音が聞こえにくくなるという特性があります。これを補正するのがラウドネスです。本機のラウドネスコントロールは、音量に応じた補正が連続的に得られますので、どの音量レベルでも低域から高域まで聴感上自然に聞くことができます。(9ページ参照)

バランス

⑩ BALANCEコントロール

スピーカーの左右の音量バランスを調節するつまみです。つまみを右(左)に回すほど、左(右)の音量が小さくなり、最後まで回すと右側(左側)のスピーカーだけになります。

サブソニック フィルター

⑪ SUBSONIC FILTERスイッチ

このスイッチを押すと内蔵のサブソニックフィルターが働き、通常の音楽再生に不必要な超低域信号をカットします。レコード盤のそりなどが原因で発生するスピーカーのコーン紙のフラつきによる歪を防止することができます。

● トーンコントロール

バス

BASS

低音域を調節するつまみです。右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“0” の位置で特性はフラットになります。

トレブル

TREBLE

高音域を調節するつまみです。右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“0” の位置で特性はフラットになります。

● PHONESジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンで聞くときはスピーカースイッチのA、BをとともOFFにしてください。

リモコン

本機は電源の入/切、入力ソースの選択、音量の調節をリモコンで操作することができます。また本機に接続したヤマハのCDプレーヤー、チューナー、テープデッキなどを、このリモコンで操作することができます。

パワー

① POWERスイッチ

本機の電源を入/切します。

② インプットセレクター

再生するソースを選択するキーです。
再生したい機器の表示のあるキーを押します。

ボリューム

③ VOLUMEキー

音量を調節するキーです。
+キーを押すと音量が上がり、-キーを押すと音量が下がります。

④ CDプレーヤーコントロールキー

CDプレーヤーを操作するキーです。
* DISC SKIPキーはCDディスクチェンジャーのみに動きます。

⑤ チューナーコントロールキー

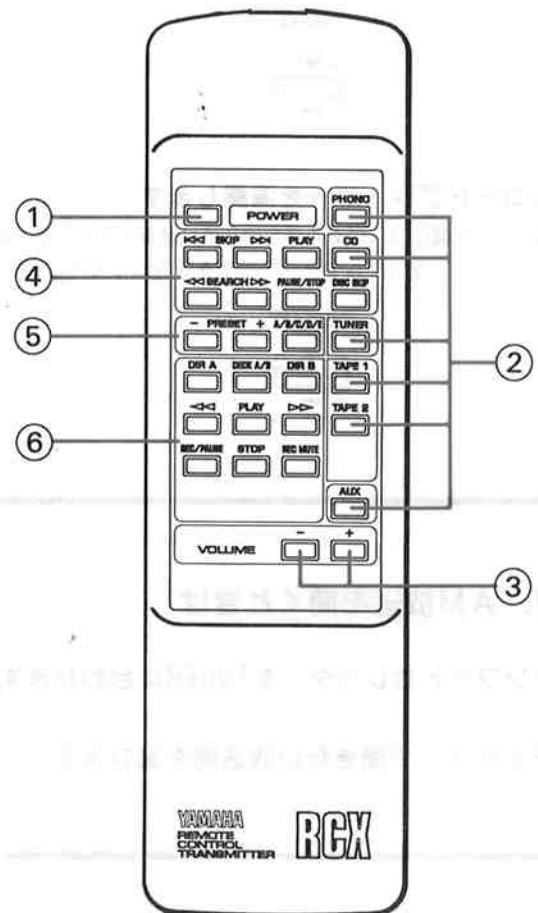
チューナーのプリセット局を選ぶことができます。

⑥ テープデッキコントロールキー

テープデッキを操作するキーです。
* DIR A, DIR Bキー、DECK A/Bキーはダブルカセットデッキを使用しているときに動きます。
* オートリバーズ機能を持つシングルカセットデッキをご使用のときは、DIR Aキーでテープの走行方向を変えることができます。

メモ

- 本機のリモコンで操作できるのは、リモコン機能を持つヤマハの機器に限ります。
- 各コントロールキーは、接続した機器のリモコンの同表示のキーと同じ動きをします。詳細は、各機器の取扱説明書をご参照ください。

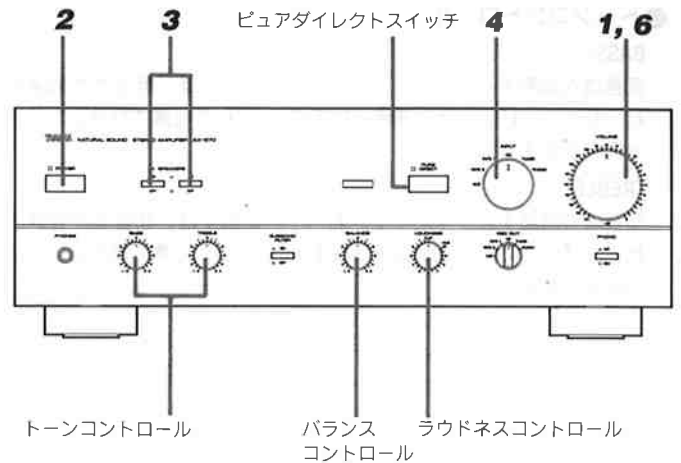


操作のしかた／再生

●接続した各機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。

- 1 ボリュームを最小の位置 (∞) にします。
- 2 本機および再生する機器の電源を入れます。
- 3 再生するスピーカーシステムを選びます。

	A	B
Aシステムで聞くとき	—	■
Bシステムで聞くとき	■	—
A, B両システムで聞くとき	—	—
ヘッドホンで聞くとき	■	■



レコードを聞くときは

- 4 インプットセレクターをPHONOに合わせます。
●MM/MCセレクターをご使用のカートリッジに合わせます。



- 5 レコードプレーヤーを演奏します。
●レコード盤にソリがある場合は超低域雑音を除去するためにサブソニックフィルタースイッチをONにしてください。



FM, AM放送を聞くときは

- 4 インプットセレクターをTUNERに合わせます。
- 5 チューナーで聞きたい放送局を選びます。

CDを聞くときは

- 4 インプットセレクターをCDに合わせます。
- 5 CDプレーヤーを演奏します。

テープを聞くときは

- 4 インプットセレクターをTAPE 1(TAPE 2)に合わせます。
- 5 テープデッキでテープを再生します。

AV機器などを聞くときは

- 4 インプットセレクターをAUXに合わせます。
- 5 AUX端子に接続した機器を再生します。

- 6 ボリュームで音量を調節します。

音質、音量バランスを調節するときは

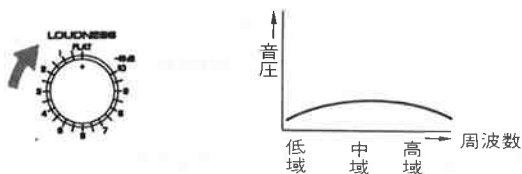
まずピュアダイレクトスイッチをオフにします。
低音を調節するときはトーンコントロールのBASSで、高音を調節するときはTREBLEを使います。また、左右のスピーカーの音量バランスはバランスコントロールを調節します。

操作のしかた／録音

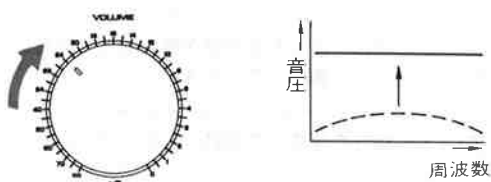
ラウドネスの使いかた

音量が小さいときに低音・高音を同時に補正するときはラウドネスコントロールを調節します。

- 1 ラウドネスつまみをFLATの位置にします。



- 2 低域から高域までのバランスが最適になるまでボリュームつまみで音量を上げます。



- 3 ボリュームは動かさずに、ラウドネスつまみを回して、実際にお聞きになる音量まで下げます。音量を下げるに従って補正が強まります。



これで音量に応じた聴感上の補正が完了しました。

ピュアダイレクトスイッチを押すと

ソース信号はトーン、バランス、ラウドネス、サブソニックフィルターなどの各回路をパスしてダイレクトに出力されますので、より元音に忠実なハイクオリティな再生が楽しめます。



ご注意

- ・ラウドネスを調節しているときにピュアダイレクトスイッチをオンにしますと、設定していたボリュームの位置に応じて大音量になることがあります。
- ・スイッチを押すときは、事前にボリュームを左に回し音量を下げてください。
- ・ピュアダイレクトスイッチがオンのときは、カプラー端子に接続している機器は使えません。

録音のしかた

- 1 各機器の電源を入れます。
- 2 レックアウトセレクターで録音するソースを選びます。
レコードを録音するときは・・・PHONO
FM, AM放送を録音するときは・・・TUNER
CDを録音するときは・・・CD
AV機器などの音声を録音するときは・・・AUX
- 3 録音するソースを再生します。
- 4 テープデッキで録音の操作をします。

テープダビングのしかた

本機に2台のテープデッキを接続しますとテープダビングが簡単にできます。

- 1 各機器の電源を入れます。
- 2 レックアウトセレクターでダビングするテープを選びます。
TAPE 1からTAPE 2にダビングするときは・・・TAPE 1
TAPE 2からTAPE 1にダビングするときは・・・TAPE 2
- 3 両方のテープデッキで再生／録音の操作をします。

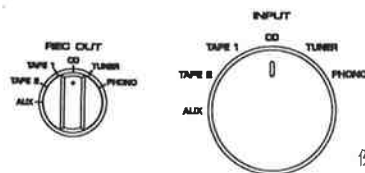
ダビング方向	レックアウトセレクター	TAPE 1の操作	TAPE 2の操作
1→2	TAPE 1	再生	録音
2→1	TAPE 2	録音	再生

メモ

- ・音量やトーン、バランス、ラウドネスなどの各コントロールを操作したりピュアダイレクトスイッチのオン／オフしても録音される音は変わりません。

●録音中のソースを聞くときは

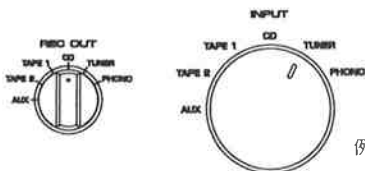
レックアウトセレクターで選んでいるソースにインプットセレクターを合わせますと、録音中のソースを聞くことができます。



例：CDを録音しながらCDを聞く。

●録音中に他のソースを聞くときは

録音中に他のソースをインプットセレクターで選び再生しますと、録音をしながら他のソースを聞くことができます。



例：CDを録音しながら放送を聞く。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。

そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチをオンにしても電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> 電源コードのプラグが電源コンセントにしっかりと差し込まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりと差し込みなおしてください
インプットセレクターを切換えても音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> スピーカースイッチが正しくセットされていない ボリュームが絞られている 入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない スピーカーとの接続が不完全 	<ul style="list-style-type: none"> 正しくセットしてください ボリュームツマミを右に回してください ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください スピーカーとの接続を確認してください
左右のスピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーとの接続が不完全 バランスツマミがL、Rどちらかにずれている 	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーとの接続を確認してください 正しく調節してください
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない	<ul style="list-style-type: none"> アンプとスピーカーの極性（+、-）が合っていない 	<ul style="list-style-type: none"> 極性を確認して接続しなおしてください
ブーンというハム音がる	<ul style="list-style-type: none"> ピンプラグの接続が不完全 レコードプレーヤーのアース線が接続されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ピンプラグをしっかりと接続しなおしてください レコードプレーヤーのアース線は本機のGND端子に接続してください
音量が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ラウドネスを調節している 	<ul style="list-style-type: none"> ラウドネスツマミをFLATの位置に戻してください
トーン、バランス、ラウドネスなどを調節しても音質が変わらない	<ul style="list-style-type: none"> ピュアダイレクトスイッチがオンになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ピュアダイレクトスイッチをオフにしてください
カブラー端子に接続した機器が動かない	<ul style="list-style-type: none"> ピュアダイレクトスイッチがオンになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ピュアダイレクトスイッチをオフにしてください
MCカートリッジの音が小さい	<ul style="list-style-type: none"> フォノセレクターがMMの位置になっている 	<ul style="list-style-type: none"> フォノセレクターをMCの位置にしてください
リモコンで操作できない	<ul style="list-style-type: none"> 電池が消耗している リモコンの操作距離、角度が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> 電池を2本とも交換してください 7 m以内、角度30度以内で操作してください

参考仕様

定格出力 (両CH駆動)	
8Ω(20Hz~20kHz) 0.015% THD	100W+100W
6Ω(20Hz~20kHz) 0.03% THD	120W+120W
ダイナミックパワー (片CH当たり)	
IHF 8Ω/6Ω/4Ω/2Ω	140W/170W/220W/290W
パワーバンド幅	
0.03% THD 50W/8Ω	10Hz~50kHz
ダンピングファクター	
20Hz~20kHz 8Ω	320
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MC	160μV/220Ω
PHONO MM	2.5mV/47kΩ
CD/TUNER/TAPE/AUX	150mV/47kΩ
MAIN IN	1.0V/10kΩ
最大許容入力	
PHONO MC	10mV
PHONO MM	150mV
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150mV/220Ω
PRE OUT	1.0V/470Ω
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
0.015% THD RL=8Ω	0.47V/470Ω
周波数特性(20Hz~20kHz)	
CD/TUNER/TAPE/AUX	0±0.5dB
MAIN IN	0±0.5dB
RIAA偏差	
PHONO MC	±0.5dB
PHONO MM	±0.3dB
全高調波歪率(20Hz~20kHz)	
PHONO MC → REC OUT 3V	0.007%
PHONO MM → REC OUT 3V	0.003%
CD/TUNER/TAPE/AUX → PRE OUT 1V	0.005%
CD/TUNER/TAPE/AUX → SP OUT 50W/8Ω	0.008%

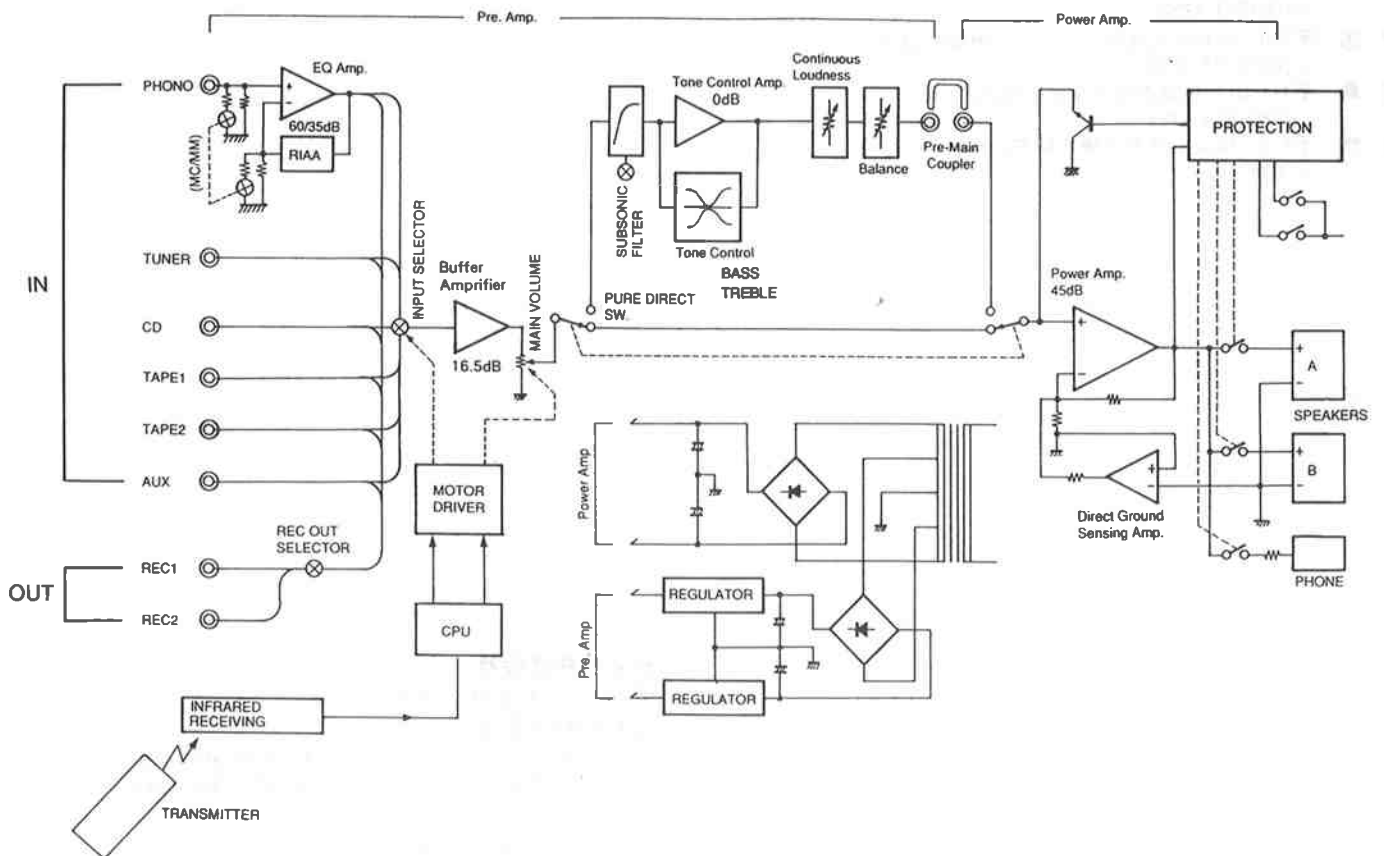
歪変調歪率	
CD/TUNER/TAPE/AUX 8Ω	0.01%
SN比(IHF Aネットワーク、入力ショート時)	
PHONO MC (0.25mV)	70dB
PHONO MM (2.5mV)	86dB
CD/TUNER/TAPE/AUX	110dB
残留ノイズ(IHF Aネットワーク)	
70μV	
チャンネルセパレーション	
PHONO MC/MM(入力ショート時、1kHz/10kHz)	75dB/60dB
CD/TUNER/TAPE/AUX(入力5.1kΩ、1kHz/10kHz)	65dB/50dB
トーンコントロール	
BASS	±10dB(20Hz)
TREBLE	±10dB(20kHz)
フィルター特性	
SUBSONIC FILTER	15Hz -18dB/oct
コンティニューアスラウドネスコントロール	
最大補正量 (聴感補正カーブによる)	-30dB(1kHz)
トラッキングエラー(0~-60dB)	2dB

定格電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
定格消費電力	180W
ACアウトレット	SWITCHED × 3
外形寸法(W×H×D)	Total 100W Max 435×150×388.5mm
重量	11kg

付属品	
リモコン	1
単3乾電池	2本

*仕様および外観は改良のため、予告なく変更されることがございます。

ブロックダイアグラム



ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理可能の範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますのでエージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハA V製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

北海道 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
Tel(011)513-5036

仙台 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
Tel(022)236-0249

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
Tel(025)243-4321

東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル
Tel(03)3255-2241

首都圏 〒211 川崎市中原区木月1184
Tel(044)434-3100

浜松 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
Tel(053)465-1158

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
Tel(052)652-2230

大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
Tel(06)877-5262

四国 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
Tel(0878)22-3045

広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39
Tel(082)874-3787

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
Tel(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

(ヤマハA V製品に対するお問合せ窓口)

東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F
東京事業所 Tel(03)3255-5691

Tel(03)3255-6767

名古屋 〒460 名古屋市中区錦一丁目18-28

名古屋営業所 Tel(052)232-5740

大阪 〒556 大阪市浪速区難波中1-13-17

なんば辻本ニッセイビル

大阪事業所 Tel(06)647-6411

本社 〒430 浜松市中沢町10-1

A V機器事業部

お客様ご相談センター

Tel(053)460-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

A V機器事業部

営業部

Tel(053)460-3451

品質保証室

Tel(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。